



卒業式(3月19日)  
校長式辞より

発行  
江戸川区立  
瑞江第二中学校  
校長 滝澤 清豪  
発行日3月25日  
東京都江戸川区  
瑞江4-54-1

式辞

春風にそよぐ桜の枝先に、小さな蕾がふくらみ始め、まもなく花開き、満開の時を迎えようとしている本日、江戸川区立瑞江第二中学校第59回卒業式を、このように盛大に挙行できますことを、心より嬉しく思います。本日ご臨席くださいました江戸川区監査委員事務局長・山田康友様をはじめ、ご来賓の皆様、保護者の皆様、心より感謝申し上げます。保護者の皆様、誠にありがとうございます。義務教育の修了は、お子様にとってはお子様の卒業、誠にありがとうございます。保護者の皆様、誠にありがとうございます。保護者の皆様、誠にありがとうございます。

事が思い出されていることでしょうか。仲間とともに学び、喜びを分かち合い、ときには困難を乗り越えた日々は、皆さんの心の中に、かけがえない財産として刻まれたことと思います。

今日は、私から最後の話をします。最後の話は、誰か偉人の名言などではありません。これは私自身が常日頃から大切にしている「教育理念の根幹」とも言える考え方についての話です。中学校3年間を振り返ると、勉強や部活動に熱心に取り組む、充実した学校生活だったと感じている人はたくさんいるでしょう。一方で、親や家族に反発してばかりで迷惑をかけた、SNSの返信に気を遣う毎日に疲れ、学校生活に距離を置きたくなった人もいるかもしれません。

測できません。ほんの少し自分の考え方や取り組み方を変えるだけで、思いがけず人生が大きく変わるチャンスが巡ってくる可能性があります。そのチャンスを決して逃してはいけません。私は、どんな人にも「チャンス到来」と感じる瞬間は必ず訪れると信じています。そのとき、それをしっかりとつかんでほしいのです。

卒業生の皆さんへ、私からのメッセージです。「どこで輝くかは人それぞれ今こそ動け、迷わずの一瞬」人生は、決して一つの成功や一度の失敗で決まるものではありません。どこで輝くか、どんな場面で自分らしく生きられるかは、人それぞれ異なります。だからこそ、自分の心の声に耳を傾け、変化の兆しを逃さないことが大切です。

また、これまで本校のPTA活動をはじめ、お子様の学校生活に温かいご理解とご支援を賜りましたこと、重ねて御礼申し上げます。

卒業生の皆さん、卒業おめでとびでございます。今、皆さんは卒業証書を手にながら、この3年間のさまざまな出来

では、前者のように中学校生活がうまくなった人が、10年後も同じ気持ちでいられるでしょうか？中学校生活が思うようにいかなかった人が、10年後も同じような日々を送っているのでしょうか？その答えは「わからない」でしょう。人生は、どこでつまづくか、またどこで輝くか、誰にも予

「人生大抵の辛いことや悲しいことは、時間が解決してくれます」そして、「いつも大きな声を出し、元気でニコニコしていれば、大抵のことはうまくいく」ものです。結び、第59回卒業生の前途に幸多からんことを祈念するとともに、本日ご臨席の皆様、そしてこれまで本校を支えてくださったすべての方々に、改めて感謝申し上げます。今後とも本校への変わりぬぐ支援とご協力をお願い申し上げます。式辞といたします。

修了式より

(3月25日)

滝澤 清豪

今日で令和6年度のすべての学びがひと区切りを迎えます。この1年間、学校生活において、皆さん一人ひとりが落ち着いて行動し、そして日常の中で友人との信頼関係を大切にして、とてもよい瑞江二中の環境を築き上げてくれました。とはいえ、皆さんのそれぞれの1年を見てみれば、決して平坦な日々ばかりではなかったことでしょう。うまくいったこともあれば、悩んだこと、迷ったこと、時には自

分に自信がもてなくなったこともあったのではないのでしょうか。それでも、今こうしてこの場に立っている皆さんは、自分なりに一歩ずつ前に進んできた証です。私は、その努力と成長をしっかりと感じています。さて、今年1年を通して、私が少し気になっていたのは、やはりSNSに関わるトラブルが増えてきていることです。スマートフォンやSNSは、今の時代においてなくてはならない道具となっています。情報をすぐに得られる、気軽にコミュニケーションができる、自分の思いを発信できる・非常に便利で、多くの可能性をもったツールです。しかし、その使い方を誤ると、心ない言葉や誤解から、人間関係を傷つけたり、自分自身も思わぬトラブルに巻き込まれてしまうことがあります。今年も、「悪気はなかった」「冗談のつもりだった」「たいたことじゃない」と思っていた「・そういう言葉とにも、SNSを通じて誰かの心に小さな傷が残ってしまった、という場面がいくつもありました。皆さんが使っているスマートフォンは、保護者の方の理解と信頼のもとで使用させてもらっているものです。そのことを忘れず、感謝の気持ちとともに、自分がどのよ

うに使うべきかを考える責任があることを、しっかりと心にとめておいてください。SNSのトラブルがなぜ繰り返されるのか。私は、その根本には、人としての未熟さ、つまり「心の育ち」が追いついていないことがあると感じています。相手の気持ちを想像する力。言葉の重みを受け止める感性。自分の言動に責任をもつ姿勢。これらは、学校生活の中で一つひとつ丁寧に学び育てていくべきものです。SNSという空間は、顔が見えず、感情が伝わりづらいからこそ、心の力が試される場面でもあります。だからこそ、一人ひとりが「自分はどう関わっていくか」「何を大切にすべきか」「何を真剣に考えなければならぬか」を真剣に考えなければなりません。では、どうすればSNSに関わるトラブルが減っていくのか。それは、日々の授業や活動を通して、考える力や対話する力を伸ばしていくことです。友達と真剣に語り合う。時にぶつかりながらも理解し合おうとする。自分の言葉を吟味し、相手を尊重する。そうした経験の積み重ねが、SNSの中でも誠実に関わられる自分自身をつくり出していくのです。皆さんのSNSの使い方、実は「自分がどんな

人でありたいか」という生き方そのものにつながっています。どうかそのことを忘れずにいてください。「技術は進歩する。しかし、心が育たなければ、それは未来を導けない。」今の時代において、とても大切な視点だと私は思います。どんなに便利な道具があっても、それを使う私たち自身の心が成長しなければ、社会はよりよい方向には進んでいきません。どうか、技術に流されるのではなく、心を育て、考え、判断し、誠実に生きる力を備えた人になってください。それが、皆さんのこれからの未来を支える「本当の力」になるはずです。瑞江二中は「多様性を認める学校」を目指しています。この取組は「プレゼンテーション」を始める前から取り組んでいることです。自分とは異なる考えも受け入れ、尊重し、お互いを理解し合う関係を構築していけば、SNSを通して仲間はずれを作ったりいじめること無くなっていくと信じています。

春休みは、自分自身と静かに向き合ってみてください。そして、4月、また一回り成長した皆さんと会えることを私は心から楽しみにしています。以上で私の話を終わります。